毎日新聞
【新聞定価1ヵ月3,925円(本体3,738円)】1部売り(消費税込み)朝刊130円 夕刊50円 〔第3種郵便物認可〕

介護現場にインドネシア人

ケア開国 手探り

インドネシア人の介護福祉士・看護師候補者計208人が研修を終え、2月中旬までに全国の福祉施設や病院計100カ所で働き始める。人手不足の解消などへ期待を集めるが、言葉や習慣の違いに加え、限られた期間内で国家試験に合格しなければならず、不安が残る。手探りで始まった「ケア開国」の現場から報告する。【福田隆、青木絵美】

高い意欲 笑顔で交流

特養ホームの利用者らと節分行事を楽しむインドネシア人介護福祉士候補生のチャンドラさん(左端)、アブドゥラーさん(右端)、デウィさん(右から3人目)＝大阪府枚方市で3日、大西岳彦撮影

特別養護老人ホーム「御殿山カーム」(大阪府枚方市)では今月2日、3人の介護福祉士候補者が働き始めた。入所者から日本の歌を教わるなどすぐにとけ込み、節分の豆まきも楽しんだ。

デウィ・スシフィアタンブナンさん(32)は「お年寄りの言葉が聞き取りにくい時もある」と言うが、自分のメモ帳に入所者の名前や職員の指示を書き込むなど意欲的だ。他の2人はイスラム教徒。信仰上、豚肉を食べないため弁当を持参し、お祈りは休憩時間に行う。伊與木(いよき)文彦施設長(36)は「賃金や仕事内容で退職者が多く、常に流動的。15～20年先を見据えて道筋を付けたい」と話す。

海外技術者研修協会(大阪市住吉区)では、看護師候補者26人が研修中だ。修了式を1週間後に控えた5日、看護で使う日本語を繰り返し発音していた。バリ島の外国人向け医院で2年間、看護師経験があるグスティ・アユ・エカ・マユニさん(24)は「認められるように努力して、将来、インドネシア人看護師が後に続けるようにしたい」と目を輝かせた。

受け入れる病院側の準備も進む。佐藤病院(大阪府枚方市)では、研修段階から電子メールなどで連絡を取り合い、日本語習得を支えてきた。同病院は「常に笑顔で対応するなど、看護の適性が高いインドネシア人から学ぶ点は多い」と期待する。友愛会病院(大阪市住之江区)では、インドネシアの歴史や文化を学ぶ職員向け勉強会を開催。スカーフの着用など、宗教上の慣習も尊重する方針だ。

漢字習得に不安も

辞書を手に、日本語の学習をするグスティさん(右から2人目)＝大阪市住吉区の海外技術者研修協会関西研修センターで5日、小川昌宏撮影

一方、ほとんどの候補者が、漢字で出題される資格試験への対応に不安を隠さない。特に介護福祉士は合格率51・3%(08年)と難関で、さらに受験には3年の実務経験が必要。4年間の在留期間内で受験チャンスは1回だけだ。大阪府内の福祉関係者は「介護福祉士の試験は、日本人でも対策講習を受けてやっと合格できるほど読解術が必要だ」と、不合格による大量帰国を危惧する。

安里和晃(あさとかずあき)・京都大准教授(移民論)は「厚生労働省は対応を受け入れ側に任せ切りで無責任。候補者はいずれも本国で看護師資格を持ち、プロ意識が強い。まず技能に合った待遇をしないと士気が下がり日本に不信感を持つだろう」と話している。

インドネシア人の介護福祉士・看護師候補者受け入れ

インドネシアの経済連携協定(EPA)により、厚生労働省の外郭団体「国際厚生事業団」の調整で、2年間に上限1000人を受け入れる。昨年8月に08年度分の208人(介護福祉士・看護師各候補者104人)が来日し、約半年間、東京や大阪などで日本語や生活習慣を研修。介護福祉士候補者は今年1月末から施設に着任し、看護師候補者も今月13日から病院に向かう。働きながら日本語と資格試験の勉強を続けるが、在留許可期間(介護福祉士4年、看護師3年)内に資格を取得できなければ帰国となる。